

# 10 イノベーションへの提言者

内閣特別顧問

## 黒川 清

**国**内における人口減少や、グローバル競争の激化に直面する中で、日本のイノベーション力が問われている。政府のイノベーション戦略会議議長として長期戦略指針「イノベーション25」を取りまとめ、推進役を担う黒川清氏に、イノベーションの条件、人材育成について聞いた。

——イノベーションを生み出すために、いま何が必要なのでしょう。イノベーションは技術だけの問題ではない。それを生み出す社会シス

テムの構築と人材育成が重要だ。

アジアで金融危機が起こったのが1997年。一時はIMFの管理下に置かれた韓国は、この10年でGDPが70%拡大した。その間、OECD各国の経済は成長している。中国やインドも急成長し日本を追い付けてきたが、この10年、日本経済のパイは拡大していない。その一方で、国内における格差が広がり、日本だけが閉塞感にさいなまれている。

今や産業構造は激変し、パラダイムが大きくシフトした。インターネットによって世界中のコンピュータ

がつながり、情報が国境を越えて自由に飛び交っている。知識基盤型社会になり、企業でもインタンジブルバリュー、つまり「見えない価値」が重要な意味を持つようになった。

日本企業、産業界も、これまで得意としてきた大量生産・大量消費型の産業構造から、発想を転換しなければならぬ。日本のモノづくり、開発技術は素晴らしいが、その技術価値に替えることが大切だ。誰の、何のニーズを満たすためのモノづくりか、何をするためか、を忘れては本末転倒になる。

グローバル世界がフラット化する中で、これからは必要になるのが「ローカルに考え、しかしグローバルに行動する」ことだ。

「ローカルに考える」とは、世界の中で自分たちの強さ、コアコンピタンスは何かを認識すること。その強みを生かし、世界の中の誰に、どんな価値を提供するのかを考え、グ

ローバルの競争の中で実現していく。それが「グローバルに行動する」の意味だ。こうした発想からこそ、イノベーションも生まれてくる。

たとえば、日本の環境技術は世界のトップクラス。国内ではすでにかなり環境対策が進んでいるから、これからの有望市場は中国、インドなどの新興国だ。必ずしも自社生産にこだわる必要はない。オーナーシップさえしっかり考えれば、技術供与でもよい。重要なのは、世界に向けて自らの技術的優位性をアピールし、「環境なら日本のこの技術」というブランディングを行うことだ。マイクロソフトがパソコンのOSを握ったように、環境技術では日本がデファクトスタンダードを実績で取る。それくらいの気構えが必要だ。

### 大学の国際化が人材育成のカギ

——そうしたパラダイムシフトに対応する人材の育成が課題です。

経済と同様に、人材もグローバル化していかなければならない。「私は〇〇銀行の者です」と自己紹介しても、世界では通用しない。「私はバンカーです」と胸を張って言えるだけの実力をつけ、所属企業にかかわらず個人力で、世界的なネットワークを作って初めて、グローバルに活躍できる人材として評価さ

の学部には必要だ。

——大学の役割は大きいですね。

私が主張しているのは「大学の大幅な国際化」だ。伝統と格式を重んじる角界では、「相撲は神聖なもの。外国人力士なんて」と、小錦が大関の頃は抵抗が強かった。だが、今や力士全体の8%が外国人。幕内は30%、横綱は100%だ。それで日本人が惨めな気持ちになったかといえ、違うだろう。むしろ、外国人力士が頑張り、彼らの出身国で日本に対する関心が高まり、理解が深まったといったプラス効果も出ている。

特に、いわゆる「一流」大学では、学部生の最低1〜2割は外国人に開放する。まずは1〜2年の交換留学でもよい。授業も2割くらいは英語で行う。それくらいの大胆な改革が必要だ。日本の学生にも刺激となるし、将来の人材のグローバルネットワーク作りにも役立つ。教員も緊張感を持って教育に当たるだろう。こうしてこそ、日本の大学の評価ができるというものだ。

今からの日本には、「世界に通用する「個人力」としての人材を、どれだけ輩出できるかが問われている。そのためには、大学のグローバル化が必要不可欠なのだ。



十賢人が語る世界の大きな変革

●内閣特別顧問、政策研究大学院大学教授。1962年東京大学医学部卒業。UCLA医学部教授、東大医学部教授、東海大学医学部長、同総合医学研究所長等を歴任。2003～06年日本学術会議会長。06年に科学技術担当の内閣特別顧問に就任し、イノベーション戦略会議の議長を務めた。

れる。自分自身の強みを生かし、世界を相手に真剣勝負するのだ。「ローカルに考えて、しかしグローバルに行動する」は、ビジネスマン一人ひとりにも当てはまるだろう。

交流を体験できる。高校生になれば、短期でいいから海外留学に出るのもよいだろう。世界を見て、世界の人たちと仲間になる。それがグローバル時代の人材を育てる第一歩だ。

最近では、子どもの学力低下が社会問題となっている。だが、すべての価値観が大学入試「偏差値」に一元化されているとすれば問題だ。だから私は、大学の入学試験はやめろ

# 世界に通用する「個人力」がイノベーションの源泉だ